

『一心千里』

走って見れば、 見えてくる

永田 隆一



第95回

英国とフランスが20

40年までにガソリン車の販売を禁止すると発表しました。これは市場環境が激変する出来事であり、自動車メーカーが性能の良いエンジンを開発しても、ガソリン(軽油含む)を燃料にする、市場のドアが固く閉ざされてしまうのであります。活路は、電池に貯めた電気で走る電気自動車か、水素を燃料として発電して電気で走る燃料電池自動車しかありません。そして、どちらもエンジンではなくモーター

1で走ります。

自動車メーカーがこれまでに資金と人材を集中投入して開発を競って来た、ガソリンを燃やして動力に変換するエンジンそのものが、自動車から無くなるのです。トヨタの開発エンジンAは2万人を超えます。間違いなく、開発の重要度がエンジンからモーターや電池へ大きく転換しているの

が、あります。そして、ほとんどの炭鉱が閉山さ

り来ません。「経営」というターミノロジーが、どうしても視点が内向きの印象を与えるからであります。

市場環境が激変するとき

経営者がプロデューサー

り来ません。「経営」というターミノロジーが、どうしても視点が内向きの印象を与えるからであります。

さて、映画製作業界で「プロデューサー」という立場の方たちがいます。一般的に、映画の構

ればなりません。興行収入が上がるか、上がらないか。調達した資金を回収できるか、できないか。役者・スタッフの費用をまかなえるか。考えただけで、胃がきりぎり痛んできそうなプレッシャーがあるのであります。

演出、照明、音声、大道具、音楽、も集めなければなりません。コンプライアンスは徹底して遵守しなければなりません。役者一人の不祥事によって上映が中止となるリスクを常に抱えているというのが厳しい現実であります。

められる世界だと思えます。監督や役者の独自の流儀も尊重しなければなりません。そして、プロデューサーには「周囲を鼓舞する資質が重要です」。しかし、それ以上に「周囲を鼓舞する不思議な魅力がある」という演技をする

れたとき、規模の大きな企業は事業の転換をつまんできませんでした。それは歴史が証明しています。

想・企画、資金調達、監督・役者のキャスティング、出演交渉、宣伝広告、映画製作にインボルブ(関与)する割合から、総責任者、後見人などと呼ばれています。

筆者は思います。今の世の中、企業の経営者は映画プロデューサーたるべきである、と。さしずめ企業の役員はプロデューサー補でありましょう。

プロデューサーは、常に「お客様(観客)」に受け入れられるかどうかという視点を意識しなければなりません。秀なスタッフ(シナリオ

(毎月連載)